

北海道駒ヶ岳

1 概況

火山活動は静穏に経過しています。わずかな山体膨張や、2003 年 9 月以降見られている昭和 4 年火口からの弱い噴気は引き続き観測されています。

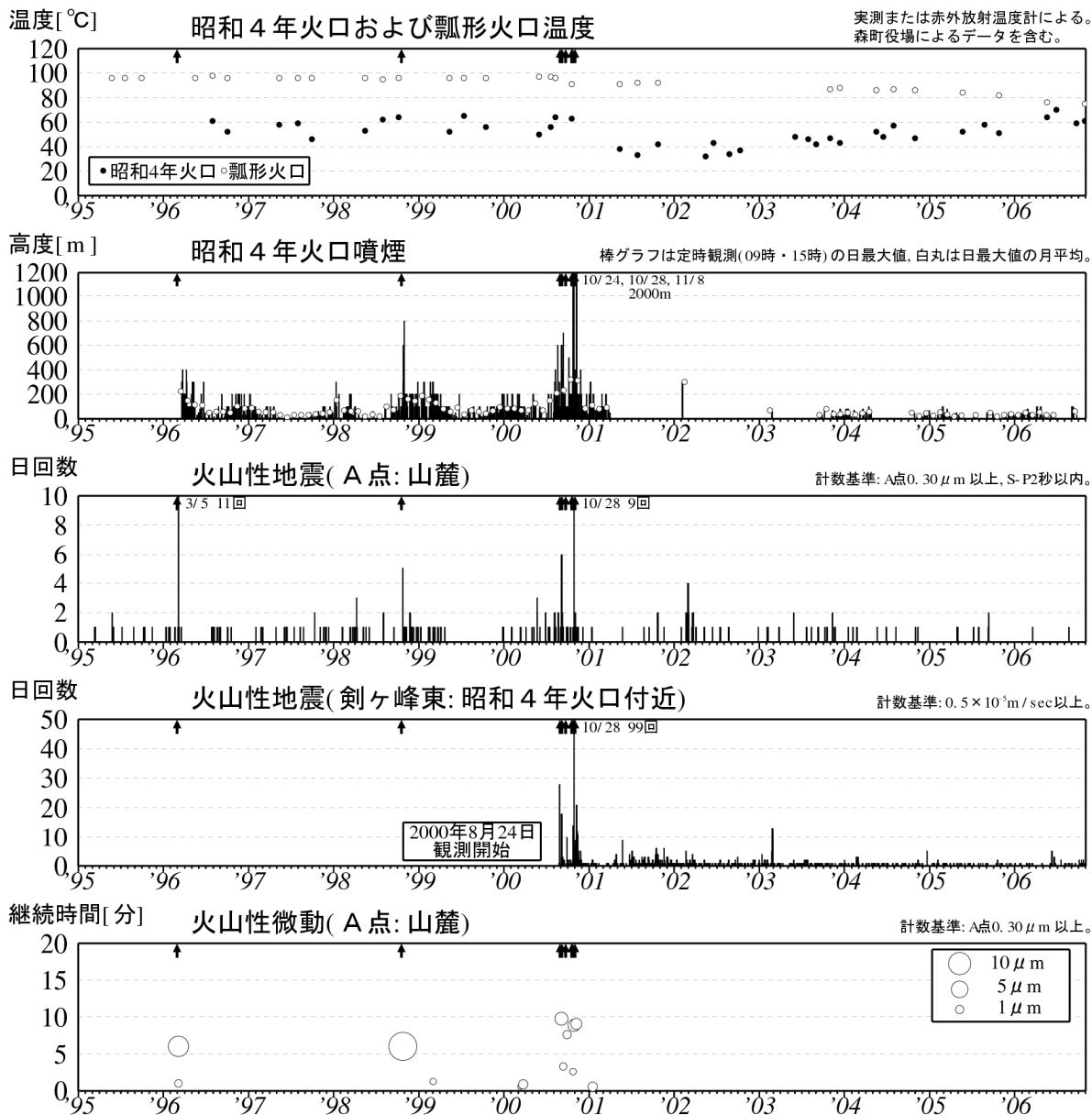


図1 北海道駒ヶ岳 最近の火山活動経過図(1995年1月~2006年10月) ↑印は噴火

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています。(承認番号 平17総使、第503号)

2 噴煙および火口の状況

昭和 4 年火口では弱い噴気活動が続いており、火口縁上おおむね 10～50m 程度の白色噴気が 2003 年 9 月以降、時折観測されています。

23～28 日に実施した調査観測では、昭和 4 年火口及びその周辺の熱活動に大きな変化はなく静穏な状態が続いています。

30 日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、昭和 4 年火口及びその周辺の火口や地熱域の状況に変化はありませんでした。赤外熱映像装置*による観測では、昭和 4 年火口、明治火口の噴気に対応する高温域が引き続き認められましたが、その状況に特段の変化はありませんでした。

【昭和 4 年火口】

火口内の南側火口壁で弱い噴気活動が続いています。赤外放射温度計*で測定した火口温度の最高は 61℃（2006 年 5 月：64℃）で、火口温度は 2002 年以降、緩やかな上昇傾向が続いています。また、赤外熱映像装置*による観測では、南側火口壁の高温域を含めこれまでと比較して特段の変化はありませんでした。

*赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

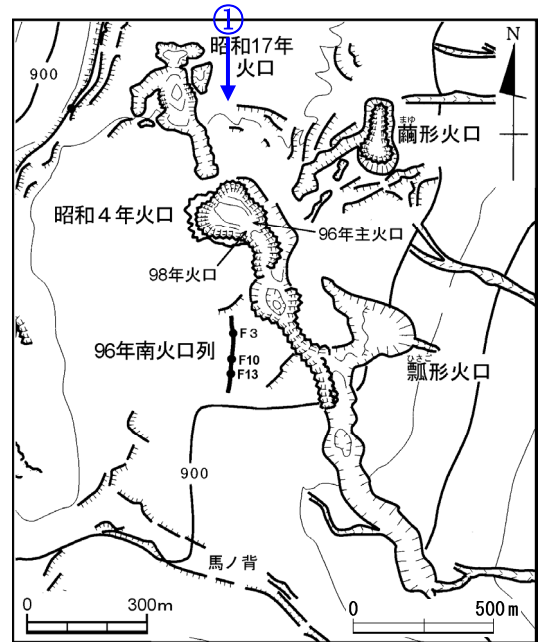


図 2 北海道駒ヶ岳 山頂火口周辺図

矢印は図 6 の上空からの熱映像撮影地点を示す

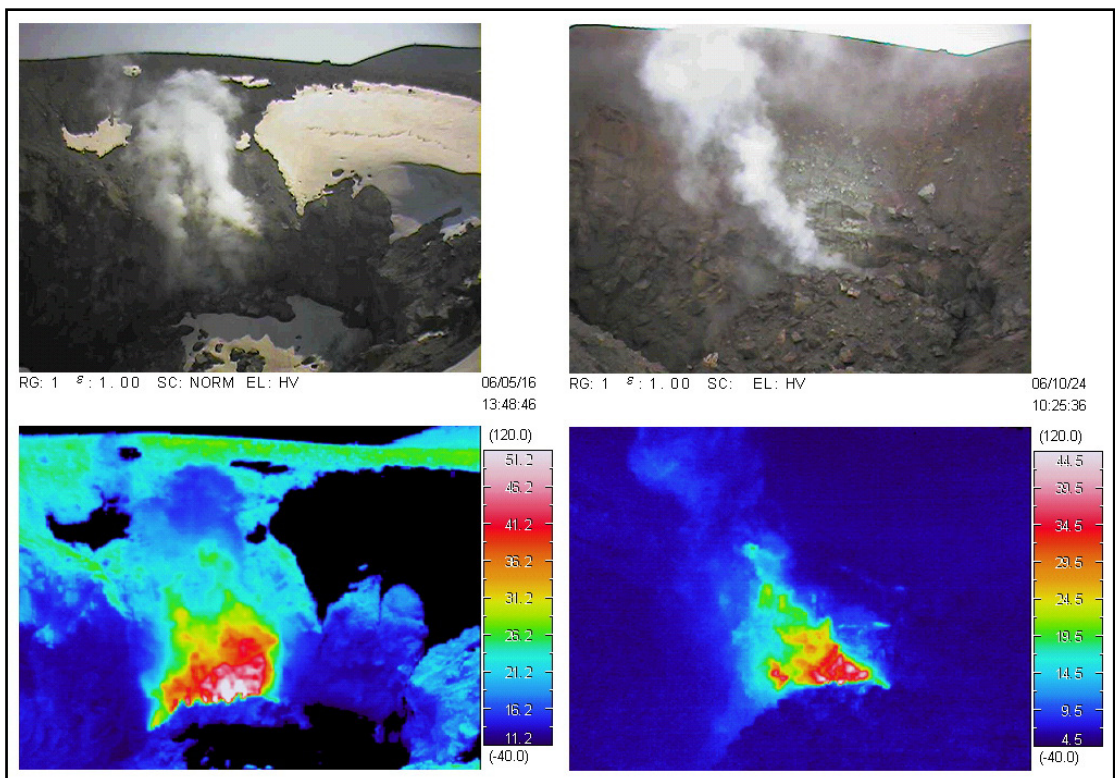


図 3 北海道駒ヶ岳 北側火口縁から赤外熱映像装置により測定した昭和 4 年火口内の表面温度分布

（左図：2006 年 5 月 16 日、右図：2006 年 10 月 24 日撮影）

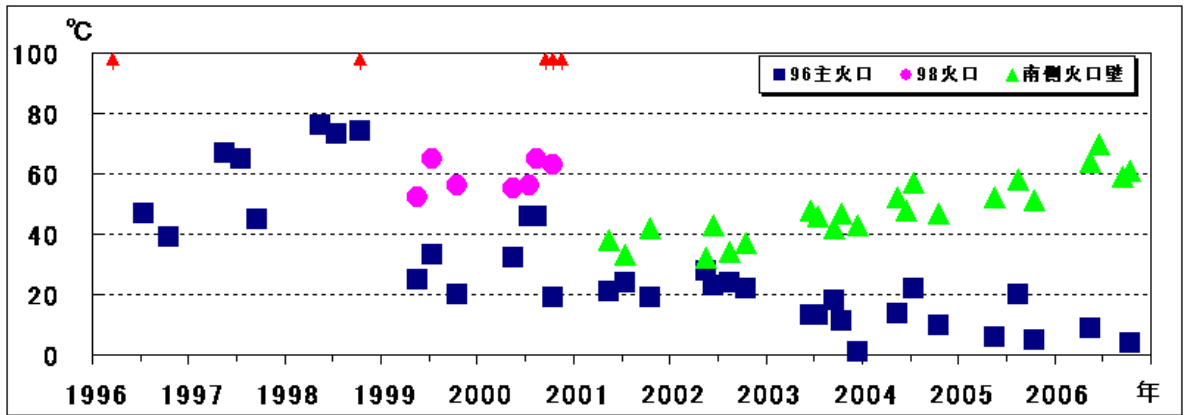


図 4 北海道駒ヶ岳 昭和 4 年火口における各領域の最高温度（赤外放射温度計*による） ↑：噴火

【96 年南火口列】

火口列の所々で弱い噴気活動が続いています。火口列南側の噴気温度は低い状態が継続しており、火口列全体で見ると、熱活動は低下した状態が続いています。

【その他の火口】

昭和 4 年火口周辺の瓢形（ひさごがた）火口、繭形（まゆがた）火口、明治火口でも弱い噴気活動が続いています。これらの火口の熱活動が活発化する傾向は見られません。



図 5 北海道駒ヶ岳 96 年南火口列 F10 噴気孔の状況（2006 年 10 月 24 日撮影）

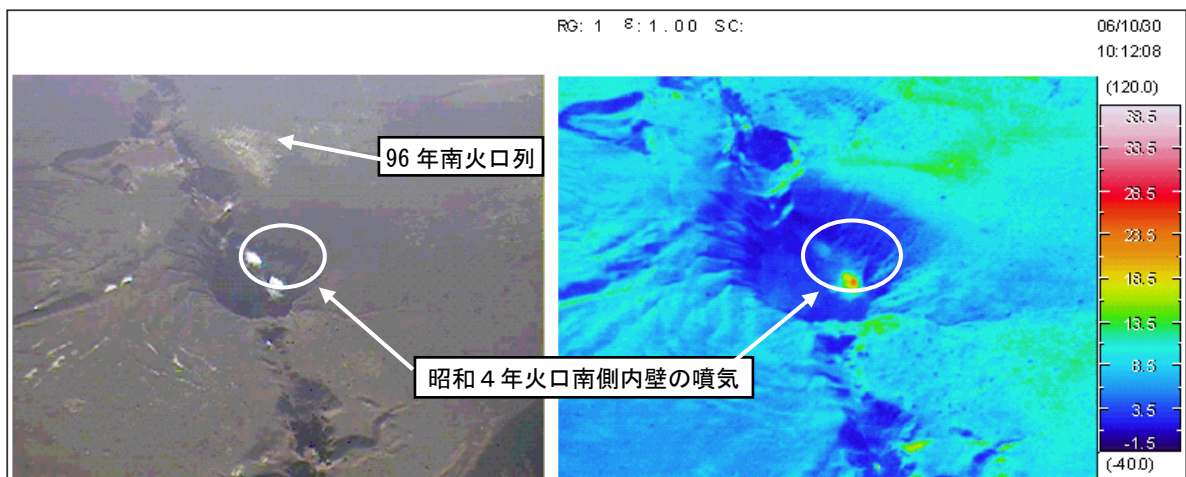


図 6 北海道駒ヶ岳 昭和 4 年火口周辺の表面温度分布

（2006 年 10 月 30 日、北側上空から撮影：図 2 火口周辺図中①、北海道開発局の協力による）

昭和 4 年火口の南側内壁から立ち上がる白色の噴気が認められました。96 年主火口には熱的な兆候は見られず、火口内の温度分布に大きな変化はありませんでした。その他、周辺の火口や地熱域の状況にも変化は認められませんでした。

3 地震の発生状況

今期間、A点（図 7: KOMA）で火山性地震は観測されませんでした。山頂の剣ヶ峯東観測点（図 7: KGMH）で観測される微小な地震も少ない状況でした。

火山性微動は観測されませんでした。

表 1 北海道駒ヶ岳 地震・微動の月回数

2005～2006 年	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
A 点地震回数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
剣ヶ峯東地震回数	3	2	3	2	3	2	0	12	2	5	2	11
A 点微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

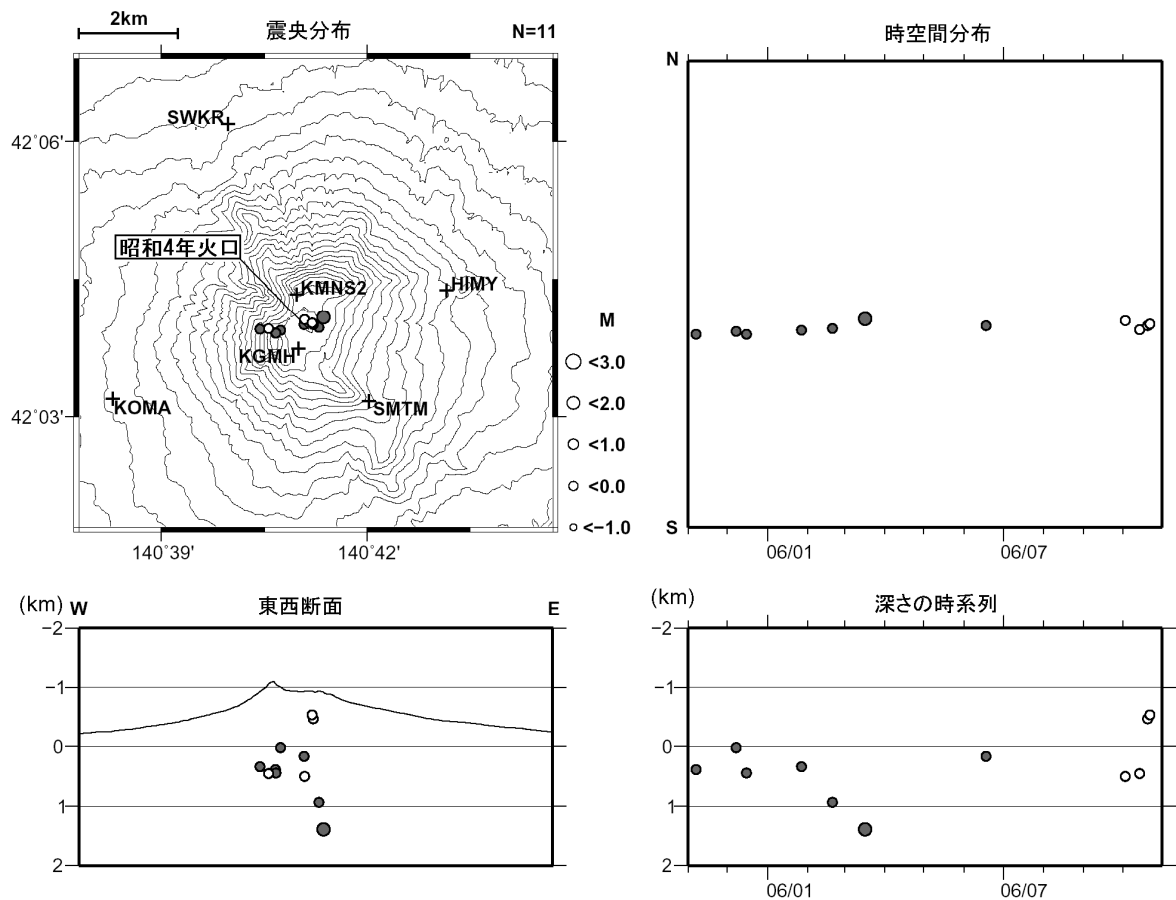


図 7 北海道駒ヶ岳の震源分布図（2005 年 11 月～2006 年 10 月、+は地震観測点）

○印は今期間（2006 年 10 月）に求めた震源を示しています。

●印は前期間までの 11 ヶ月間（2005 年 11 月～2006 年 9 月）に求めた震源を示しています。

前期間までの震源は山頂火口原直下の浅い所（山頂から深さ約 1～3km 付近）に分布しています。

4 地殻変動の状況

【GPS 連続観測】

GPS 連続観測では、季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められています。

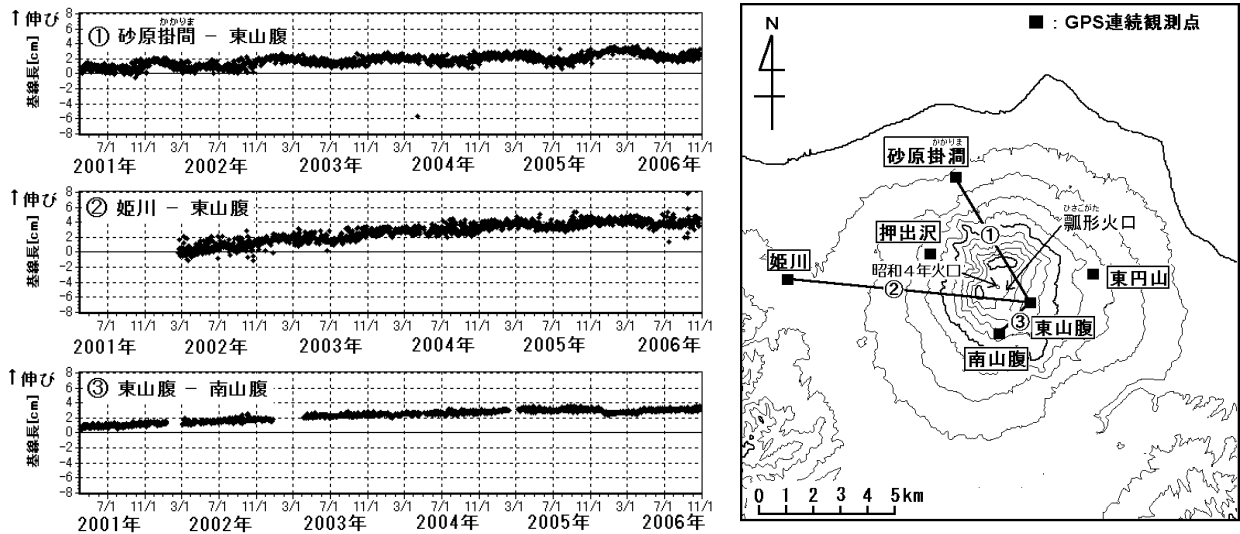


図8 北海道駒ヶ岳 基線長変化（2001年4月～2006年10月）グラフの空白部分は欠測

【GPS 繰り返し観測】

23～28日に実施したGPS繰り返し観測では、昭和4年火口を挟む複数の基線でわずかな伸びが引き続き観測されました。これらの基線では2003年まで収縮傾向でしたが2004年には反転し、わずかに膨張する傾向が続いています。

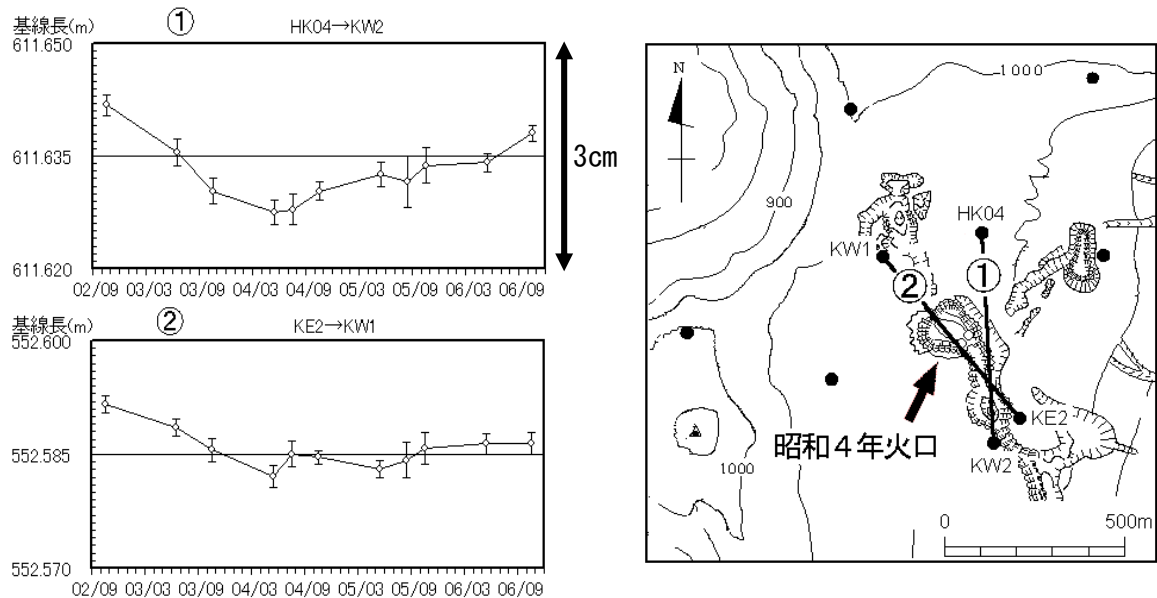


図9 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口周辺のGPS基線長変化